

# 余野川ダムについての 住民対話討論会

意 見 書

# 目 次

## 発言される方

有 光	章 治	.....	1
栄 木	正 治	.....	2
岡	秀 郎	.....	3
尾 上	喜 治	.....	4
門 前	昇	.....	10
酒 井	一	.....	11
住 田	由之輔	.....	12
千代延	明 憲	.....	13
西 川	隆 夫	.....	14
古 野	伸 夫	.....	15
増 田	京 子	.....	16
水 野	育 成	.....	17

## 発言を希望された方・ご意見のみの方

秋 山	孝 昭	.....	18
上 田	士 朗	.....	19
中 田	實 穂 子	.....	20

発言される方

氏名	有光 章治	住所	大阪府箕面市	年齢	59 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>一庫ダム完成後での洪水は発生していないのではないかと...？現状での雨量と洪水の関係、更に河川改修と一庫ダムの洪水調整容量を増加することにより充分対応できるのではないかと？余野川ダムの洪水調整量は不必要ではないか</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>すでに工事はかなり進んでいるわけであるがこれ以上の環境破壊はなんとしてもくい止####たい。現状工事終了分については自然と調和させる方法で活用すべきである。</p> <p style="text-align: right;">(####は判読不能文字)</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>利水については万が一不足した場合の対応は大阪からの補水で充分間に合うはずである。一庫ダムの利水分を放水して万が一不足した場合でも何ら問題はないと思う。</p>					
<p>その他</p> <p>余野川ダムありきの 25 年前の計画に無理があるのではないかと？</p> <p>現状をもっとしっかりと認識する必要がある。治水にしても利水にしても現状では不必要（余野川ダム）である。ぜひとも中止してほしい。</p> <p>多田地区の洪水については余野川ダムではなく複合的な対策が必要である。（やるべきである）</p>					

氏名	栄木 正治	住所	兵庫県川西市	年齢	61 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>洪水調節による減災効果である、「氾濫規模を減少させ」「破堤を遅らし避難時間がかせげる」ことは、今年 7 月新潟・福島豪雨で実証しましたが、今後の高齢化社にとって大変有用であります。余野川ダムは、箕面川流域に次いで余野川流域に豪雨をもたらした過去最大の被害を発生させた昭和 42 年 7 月出水の実績からも、余野川からの出水を抑制し、大変有効です。以上の関係資料を別紙-1～別紙-7 として用意しました。</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>余野川ダム貯水区域は、猪名川流域 383km<sup>2</sup> (山林約 220km<sup>2</sup>) に対し 1 km<sup>2</sup> 未満で影響量は極くわずかです。箕面川ダムと同様に別の新たな好まし環境が出現すると期待しています。なお、必要な影響対策は CO<sub>2</sub> 排ガス走行でも その抑制規制の法律に従った車を購入し運転するのと同様、ダムに関係した環境影響評価法に従って実施されればよいはずで、河川整備計画策定の必要事項(河川法)とは、別です。</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>淀川本川に水源を求めるべきとする意見がありますが、その水源ダム自体、水源地域の方々が多大の協力で現在の給水区域の実情を理解されたもので、猪名川のことまでとなると反発が出るでしょう。猪名川流域の責任区域を明確にし、利水者の見直しを受け、協議調整のうえ実施されるよう願います。</p>					
<p>その他</p> <p>河川整備計画での整備規模は、欧米先進国などに立遅れている状況と高齢化への対応から治水においては、最終目標(1/200 年)に対し 1/50 年～1/100 年の安全度を目指し、利水においても、近年のきびしい流水状況を反映させ最評価された安全度(治水対策ダム機能を付加するなど)をお願いします。</p>					

氏名	岡 秀郎	住所	大阪府大阪市	年齢	47 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>余野川ダムは、 もともと過大な治水計画の中で事業化され、 また猪名川水系の洪水に対する寄与率が極めて低く、 さらに一庫ダムに関する治水機能の増大策、 および銀橋狭窄部上流域における総合的な治水強化策が図れることや、 銀橋狭窄部下流域においても堤防強化などの治水策が可能なこと などから不必要です。</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>余野川ダムの建設は、 まず、流域生態系の中心をなす水循環システムに決定的なダメージを与え、 また、オオタカやニホンジカなども生息している、北摂山系の豊かな自然環境のコアエリアを湛水域に沈めてしまいます。里山里地地域という貴重な自然環境資源を喪失させるダム建設は極めて不合理で、中止すべきです。</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>余野川ダムに関する利水についても、 周知の通り、箕面市および阪神水道企業団が利水の撤退を決定し、 また、淀川水系河川整備計画基礎案で、国土交通省が、一庫ダム利水容量の振り替えに余野川ダムが有効（要約）としていますが、この利水もも大阪府営水道などからの利水で賄えること などから、不必要です。</p>					
<p>その他</p> <p>余野川ダムについては、治水、環境保全、利水いずれの面からも不必要で、これに 500 億円（うち 380 億円は執行済みで、場合によっては 500 億以上の）税金を無駄に注ぎ込むことは許されません。止々呂美地域など地元の方々には、大阪府・箕面市とともに、ダム以外の内発的振興策などを示たうえ、ダム事業を終えるべきです。</p>					

氏名	尾上 喜治	住所	大阪府箕面市	年齢	65 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>余野川ダムの建設と効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和42年の洪水では、止々呂美地域で2名の死者がありました。池田市伏尾の余野川沿いの発電所跡では、国道が水に浸かり吉田橋から細河や古江も浸水しています。また、川西、豊中でも浸水しています。その後、余野川や猪名川堤防は幾分良くなっていると思いますが、安心と言えるのでしょうか。災害が起きれば行政は想定外と言いますが、被害を受けた市民は想定外では済みません。現時点で、実現可能な対策は全て行って頂きたいと思います。余野川ダムについても、用地買収はほぼ完了しており、すぐに実現可能な対策です。住民の安全・安心、命に関わる問題は、お金に換えることはできません。</li> <li>・私たちは自然に対して畏怖の念があります。自然災害を押さえようと思っても無理なのは解っています。シカやシシが畑を食い荒らし、果樹も被害を受けます。これも自然との闘いと思っていますが、自然を押さえ込もうと色々やってみても結局、人間は負けていると思います。自然には生かされてもあり、負かされてもいるのは、常日頃から実感しています。しかし、可能な手段は行っています。生活安定のため、畑作でも努力しています。災害対策についても、生活安定には欠かせないものであると思います。ダムで水害を完璧に押さえられると思ってはいませんが、災害を軽減するための努力の一部です。しかも、余野川ダムはゼロから作るのではなく、すでに用地があります。あと少しで安心が増えるのであれば、余野川ダムを建設して頂きたいと思います。</li> </ul>					

氏名	尾上 喜治	住所	大阪府箕面市	年齢	65 歳
猪名川流域の環境とダムについて					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境への配慮は必要です。但し、過度の配慮は不要です。生態系の破壊は人間に影響があるとされています。しかし、極論を言えば、トキやニホンオオカミの絶滅により日本でどんな影響が出たのでしょうか。外来種の侵入は、漁業等に影響があると思いますが。止々呂美地域では平安時代からクヌギの炭を焼いていたようです。その前はたぶん原生林だったと思います。この炭産業で、どんな影響が出ているのかはわかりません。環境を考えるなら止々呂美の山は平安時代以前の原生林に戻す必要があるのでしょうか。</li> <li>・ 産業が衰退し、尼崎臨海地帯の工場が潰れ、水が余っているようですが、土地も遊んでいるのではないのでしょうか。地元民である私たちからみると、治水・利水に効果がある余野川ダムの土地より、役に立っていない尼崎の臨海地帯の土地を自然に戻せばいいと思います。これは、下流域の住民にも共通することではないのでしょうか。尼崎の臨海部は、僅か50年前には田んぼや海だったと思います。現在、森を造っているようだが元々の姿ではありません。</li> <li>・ 自分達が見える範囲だけで議論を行わずに、若い人の将来のため、開発と保全のバランスを考える必要があります。独身と老人の居住地の都心回帰傾向は間違いないと思いますが、子供を育てる世代は交通や生活の利便が良く環境も良い郊外を好みます。このような場所は便利さと環境が混在します。</li> <li>・ 都会の人はどれだけ環境に気を使っているのでしょうか。発電は環境負荷が大きいと思います。各家庭や個人では節電されているかもしれませんが、街の道路には、防犯のため街灯をたくさんつけています。コンビニも沢山あり、夜にまで電気つけて営業しています。大阪都心部のタクシーも沢山客を待っています。止々呂美地域ではそんなことはありません。「都会の便利さ」の裏側にある環境に与える悪影響に目をつぶり、「開発の表」に見えている一部分を声高に叫ぶのは都合が良すぎると思います。都会の人はもっと自分達の家周りの様子を冷静に見て頂きたいと思います。どこがどうなっているか、すぐ見えてくると思います。</li> <li>・ 最近、道頓堀をきれいにしているようです。水質改善は必要ですが、景観や雰囲気づくりの照明に優先的にお金をかけるのでしょうか。湧水対策にお金を使うべきです。</li> </ul>					

氏名	尾上 喜治	住所	大阪府箕面市	年齢	65 歳
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原因はわかりませんが、新聞報道などを見ていると湯水が多いのは事実です。湯水の不安がない、余裕のある安定供給をお願いしたいと思います。水は生活に必要不可欠であり、十分な水供給には余裕が必要だと思えます。</li> <li>・水需要の予測は、将来の経済回復を見越した予測を行っているのでしょうか。産業を誘致するためには、水は必要不可欠です。重厚長大産業でなく、製造業でも水は必要です。尼崎や堺の臨海部では産業構造の変化により水余りかもしれません。しかし、国や自治体においては、空き工場・土地をそのまま放置し、衰退し、雇用と人口が減少する状況を放置されては困ります。雇用増大と景気を回復するための一つとして、外貨の稼げる新産業を誘致するためには、余裕のある水供給が必要です。推論となりますが、景気が良い時は犯罪も少ないと思えます。</li> </ul>					
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な数値が無く判断が困難。その状況で述べる意見は、結果的に的はずれになるかもしれない。その際にご容赦を</li> <li>・止々呂美はかつてから、農産物及び炭の生産で生計を立ててきました。1年の半分はビワ・栗・山椒で生活を行い、残りの半年は炭を焼いて暮らしてきました。しかし、昭和30年代頃から石油がエネルギーの主役となり、炭の需要が激減し、同時に私たちの生活維持も危うくなってきました。そのため私たちの親は、開発を行い、住人を増やしそれに伴い活性化する産業に期待し、数十年前に山を開発業者に売りました。面積にして6万坪程度と聞いております。</li> <li>・時代は変わり、炭は衰え、1970年の大阪万博の前から箕面市の中心部においては、開発が進みました。川西市、豊能町においても同時期に大規模な宅地開発が行われました。しかし、旧来より開発を希望している止々呂美地域においては、都市計画制度などの規制に阻まれ一向に開発が進みません。</li> </ul>					

氏名	尾上 喜治	住所	大阪府箕面市	年齢	65 歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今から、30年ほど前の話になります。旧建設省よりダム計画が提案されました。私たちは当初、ダム計画に反対致しましたが、国の話に耳を傾け、猪名川の治水・利水について総合的に考えた結果、ダム計画を受け入れました。このダム計画に対しては、先祖代々の土地を手放す事となるため、地域住民の中でも「賛成」「反対」を初め様々な意見が交換されました。しかし、私たちがダムを反対する事により、余野川下流の池田市、川西市、伊丹市などで河川の氾濫が起きたことがあり、今後も氾濫する恐れがあるとともに、これからの水需要に備えられなくなる事を鑑みると止々呂美地域の問題だけではない事に気づいたため、ダム計画を受け入れることが流域全体の安全・安心に繋がるものと考え、ダムありきのまちづくりを進めていくことを選択しました。</li> <li>・このまちづくりによって、地域が活性化され開発が進むものとするれば、まさに先代の希望とおりとなります。また、現在の状況としては、宅地開発事業の事業者も大阪府として決定し、平成19年には念願の「まちびらき」を控えております。</li> <li>・ところが、平成9年に河川法が改正されました。新しい河川法では、「環境」が重視され「河川整備計画」を策定しなおすとのことです。その「河川整備計画」策定のため、淀川水系では「流域委員会」が設置されました。「流域委員会」では「ダムは、自然環境に及ぼす影響が大きいことなどのため、原則として建設しない」との提言がなされました。これを受け、現在は国がダムについての調査・検討を行っています。</li> <li>・昭和47年、昭和48年においては川西市、伊丹市、豊中市で浸水がありました。その浸水被害を目の当たりにすると、直接、下流域の人に頼まれたわけではないですが、上流部に住んでいる私たちも他人ごとではないと考えました。また、地域住民はダム計画を軸としたまちづくりを進めていると共に、ダム事業に関しても出来る限り協力してきました。ダム関連用地の取得などにおいては、地元一丸となって地権者の協力を得てきたところです。これらの協力は全て、猪名川下流域の発展及び開発された地域の治水・利水のためになるものと思い、行ってきました。その間に下流域は、ほぼ成熟した都市となり、次は止々呂美が発展する順番という思いでいます。昭和40年代から旧建設省はダムの調査を始めていますが、この頃、下流域のまちは急激な発展を遂げています。</li> <li>・「流域委員会」では「ダムなし」の議論が行われています。また、地域外の人の中には「ダム反対」の声も見受けられます。地域住民から見ると、ほぼ用地も買収済みであり、導水トンネルも概成している段階でダムを白紙に戻すことなど理解できません。止々呂美の将来や下流域の治水、現状でも水が不足している一庫ダムの事を考えるとダムは絶対必要なものです。</li> </ul>					

氏名	尾上 喜治	住所	大阪府箕面市	年齢	65 歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宅地開発に関連する意見を申します。この宅地は「水と緑の健康都市」です。これは、ダム貯水池を見越した計画であることは周知のとおりです。もし、ダムがなくなれば「緑の健康都市」となります。これでは、他の宅地開発地域と差別化が図れず、定住される方も少なくなるに違いありません。それでは、先代が土地を手放した意味がなくなると同時に、現区画整理事業にて換地される地元住民の土地の価値が下がります。それは、先代及び現在の地元住民が望んでいる方向とは全く異なるものであることをご理解頂きたいのです。</li> <li>・ 前段で述べました通り、止々呂美の山は「炭産業」に伴い、先祖代々、手を入れて守ってきた山であり、平安時代には勝尾寺領内で大量の炭を焼いていた記録もあります。クヌギの木などは、炭焼きのために約8年で枝を伐採するため、新芽がよくありました(台場クヌギと呼ばれています)。そのため、シカやシシなどはその新芽を食し山から出て来ることはありませんでした。しかし、石油の躍進、炭産業の衰退に伴い山に手を入れることもなくなり、近頃では動物たちは山を降りてきています。特にトウモロコシ・芋・茄子等の農作物への被害は甚大です。止々呂美住民により、手入れされてきた山は、まさに自然環境豊かな山であり動物と共存できる山であると思いますが、現状では動物による被害に悩まされる生活を送っています。自然を守る事が大事なのは、地元住民は十分に理解しています。が、その大変さも理解しています。その上で、私たちは先代から開発を選択しているのです。「環境が大事」と申される人の意見はわかります。ただ、その「環境」を守るためには維持・管理が必要なのです。一昔前は炭産業に伴い、維持・管理を行う事ができましたが、現在はそうはいきません。その事を理解の上、「環境」を議題にして頂きたいと思います。</li> <li>・ 炭産業が衰退し土地を手放してから今日までの間は、先祖が山を売ったお金で暮らしていましたが、そのお金もそろそろ底をついてきました。その間には、近隣にて大規模開発が進みました。正直、ここで開発が無くなってしまうと、街へ出る人が多くなり過疎化が進み、止々呂美住民が居なくなり、最後には、四季折々の表情を見せる止々呂美の山も荒れ放題となってしまいます。</li> <li>・ また、ダム反対を叫ばれる方がいますが、大抵、都市部に住んでおられる事と思います。地元から見ると、「自分は便利な所に住みながら、人の地域の開発にはうるさい」としか思えません。環境が大切ならば、もっと早く人家が無かった近隣の開発を抑制すべきだと思うと同時に、止々呂美の不便さ、山の維持・管理の大変さを理解して頂きたいと思います。</li> </ul>					

氏名	尾上 喜治	住所	大阪府箕面市	年齢	65歳
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民としては、ダム事業を中心とした宅地開発をぜひ行って頂きたいと切に願っております。</li> <li>・以上、ダム推進的な意見を述べましたが、これはダム反対意見が多数であることを見越してのことです。治水、利水、環境つまり安全、利便性、環境のベストミックスの意見を述べたかったのですが、一部うまく表現できないところがあると思いますがよろしくお願い致します。</li> <li>・ダムの計画については、調査・検討中であり具体的な数値が無く判断が困難です。その状況で述べる意見は、結果的に的はずれになるかもしれませんが、その際にご容赦ください。</li> </ul>					

氏名	門前 昇	住所	兵庫県川西市	年齢	67 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>川西市多田地区の浸水被害に限っての意見。遠く満仲の時代より、この地点の治水には川の両岸に竹ヤブを作り自然の護岸帯を作っていたが、昭和 30 年代後半に 173 号が猪名川寄りに改変されたことによってバイパス沿いの開発が進み、竹ヤブが切払われた事が主原因であると思います。この地点の堤防強化が浸水防止に不可欠です。又、S28 年の駅前附近浸水は、塩川の合流点より上、2 つ目の橋に流木がひっかかり塩川の水が旧 173 号沿いに流れ込んだもので、この地区の浸水被害は狭窄部が主因ではないと思う。</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>猪名川上流部は古代より造船用の木材を供給していた記録があり、大木が多くあったが、多田銅銀山の燃料としてほとんど伐採され、クヌギ、コナラ、栗、赤松が植林されて、マツタケ、栗、炭の産地となった地域である。又、多田銀銅山の 2 大中心地の一つである国崎地区に設置された一庫ダムに多くの坑道が埋れているが、鉱毒のしみ出しについての調査はなされているのだろうか。</p> <p>鉱山の鉱道の多いこの地区にダムを建設するに当って、この調査は重要であると考えます。</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>猪名川支流中流域に設置されている「一庫ダム」や今回計画中のダムにも、上流から流入する生活廃水や農業廃水により、富栄養化が進み、慢性的に、水質が悪化している。上水道用のダムはこれら廃水の流入しない、上流部に設置されるべきではないかと考えます。現況の一庫ダムの水の浄化には大変な費用がかかっていると思います。</p>					
<p>その他</p> <p>余野川ダムに関する意見は別紙意見書に記入</p>					

氏名	酒井 一	住所	兵庫県尼崎市	年齢	54 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>堤防の強化が第一優先課題。加えて、浸水被害の軽減のための街づくり防災体制の充実をはかるべき。どんなに対策をしても、川はあふれることがあるとの前提で対策はとられねばならない。</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>すでに数多くのダム建設によって、わが国の河川の自然環境はずたずたになっている。これ以上の破壊は厳に慎むべきである。</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>余野川ダムの利水についてはすでに利水主体である箕面市と阪水共に撤退の意志をあきらかにしており、その目的は失われた。</p>					
<p>その他</p> <p>狭さく部上流の浸水対策のために一庫ダムの利水容量を余野川ダムに肩がわりさせるプランは、余野川ダムの利水が不用となってからもち出されて来たもので、余野川ダムを作らんがための御都合主義との批判をまぬがれない。</p>					

氏名	住田 由之輔	住所	兵庫県川西市	年齢	57歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>治水の必要性は強く感じています。特に銀橋下流域、又多田地域の逆流現象について。その為に今、余野川ダムもふくめてダムが必要とは感じられません。堤防強化をふくめて整備をすべきと思います。</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>ダムは河川を分断し、魚の生態には悪影響すると思います。小動物がいかに種を残すことができるのかそれを保証する状態を保全、改善するのが私達の仕事と考えます。</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>川西に住んでいますから一庫ダムの貯水について気になります。利水を考えれば保水する森を整備することが大切だと思います。田畑の整備も必要です。単にダムだけにたよった利水を考えるべきではないと思います。</p>					
<p>その他</p> <p>猪名川をいこいの場として考えた整備をしていただきたい。小動物が生きながらえる川にして欲しいと願います。もちろん飲み水として活用できる水が流れる川として周辺をふくめた環境に配りよして下さい。</p>					

氏名	千代延 明憲	住所	大阪府吹田市	年齢	62 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>余野川ダムは猪名川下流部の洪水被害に有効とされているが、この効果は数字上だけのものであり、果して社会的に有効か。例えば昭和 28 年 9 月型 1.8 倍の洪水で「ダムなし」の場合、床上浸水 11.1 万戸。「ダムあり」の場合 9.3 万戸となっている。1.8 万戸減少しているが、逆に 9.3 万戸（全体の 84%）恩恵にあずかれない。これでは社会的に有効とはいえない。ダムよりも溢水しても破堤しない堤防にグレードアップし、破堤による甚大な被害を軽減することを選択すべきではないか。これなら、対象の全体が被害軽減の効果を享受できる。</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>余野川ダムの目的の 1 つに「河川環境の維持」というのがあるが、これはダムの目的とはなりえない。ダムはいくら対策を講じても、環境面のマイナスはほとんど解消されない。もしそれができるのであれば、環境面で問題の多いダムが全国には何百もあるので解消策が実施されていなければならないが、それは実施されていない。有効な対策がほとんどないことの証である。ダムが不可欠な場合、「河川環境の維持」を便上して目的に加えることは許容できる程度のものである。</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>a) 余野川ダムに当初水利権設定を申し込んでいた阪神水道企業団及び箕面市の、ダムからの利水撤退は即認めるべきである。世の中の事情が変わったのであるから仕方ない。</p> <p>b) 一庫ダムの池田市、豊能町の利水容量を、余野川ダムで振替えて確保し、一庫ダムの治水能力を高める構想があったが、池田市、豊能町は平成 17 年度から大阪府営水道から水の供給を受けるようになったので、振替えの必要はない。要するに余野川ダムには、少なくとも利水目的は不要である。</p>					
<p>その他</p> <p>余野川そのものの沿川の洪水被害軽減という目的は、余野川ダムのメインの目的にはなりえない。ダムができれば、自ずと派生的に被害軽減の効果を享受できるという程度の位置付けである。地元の方々の気持ちはわかるが、問題の本質を見過らないようにしなければならないまい。</p>					

氏名	西川 隆夫	住所	大阪府豊能郡豊能町	年齢	68 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>およそ人類がこの世に存在して以来、治山治水は最大の感心事です。流域の開発が進み都市河川となった猪名川が通常の手法だけで維持出来るはずがない。ダムが最善の策でないとしても次善の策であるなら 国家の責任において実施されるべき施策である。世情に流れる悪評が猪名川流域のような都市河川まで呑み込むのは行き過ぎである。</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>能勢ダイオキシンの適法処理（知事権限によるマスタープランづくり）と川西市国崎における大規模鉱山跡の開発は絶対に阻止しなければならない。</p> <p>多目的ダムの汚染は恐ろしい結果を招く。流域全体を一つの目でとらえ、住民の監視が継続されるような体制づくりが急務であり、当面の監視を怠ってはならない。</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>水の需給予測が過大であるなら修正されるべきが当然と思うが、次項に述べる「伊丹空港の跡地利用」等 国家的戦略にはベースとなる水の供給は絶対条件となる。旧摂津国が大阪・兵庫に分断されて 130 年余、流域全体を一つの目で見ることのなかった地域です。重大な欠陥とならないよう総合判断を誤ることのない</p>					
<p>その他</p> <p>大阪・兵庫にまたがる都市河川であり、伊丹空港の将来、第二名神等を見すえた、流域マスタープランが必要です。特に北摂は住宅中心の開発が進み職住のバランスを欠く地域です。「道州制・伊丹空港の跡地利用等」に及ぶ東アジアの拠点都市となるべき要件を備えている。流域全体の発展と都市河川の整備を早く見地からも早急なビジョンの確立を訴える。</p>					

氏名	古野 伸夫	住所	兵庫県尼崎市	年齢	62 歳
猪名川流域の治水とダムについて					
<p>ダムは治水に<u>不可欠の保険手段</u>と考える。猪名川流域における余野川ダムの必要順位が公開され、過度の負担がなく、公平適正な負担と補償を伴う合意形成を求める。</p>					
猪名川流域の環境とダムについて					
<p>ダムが自然環境に影響することは自明で、淀川流域委員会提言「原則的には建設しないものとする」は原則論として賛成である。余野川ダムの場合、支流地域の総合的自然環境と産業振興が調和した<u>適正ダム</u>に改善されるならば、建設が必要と考える。</p> <p>ダム建設反対理由とされる滞留水域の水質悪化、下流域への流下水量不足に伴う自然破壊、栄養塩途絶に伴う漁業不振が顕在化している。それぞれの側面に利害や要求の違いが存在し、公開の場で討論されることは喜ばしいが、単なる<u>懐古復古論</u>にしないでほしい。</p>					
猪名川流域の利水とダムについて					
<p>現在の貯水、ダムの問題点は、表～上層水のみを利用し中～底水を滞留させたままにしていること、(溜池構造)に起因していることを強調したい。溜池構造の表層水が水資源として商品化されるので、この水質は改善されたが、採取困難な<u>底域対策</u>が次世代に先送りされている。豊かな生活に欠かせない尿素肥料が大気窒素から化学合成されて、環境に年々累積している現状では、閉鎖水域の水質悪化が必然である。これを理由とするダム建設の反対ではなく、<u>現行ダム技術の問題点に対する改善を提案</u>したい。</p> <p>1．ダム底の利用されない堆砂域、富栄養化、水質汚濁をやむなしとあきらめずに、底域が透視できる貯水施設、「賢いダム」作りを提起する。つまり水抜き清掃ができない大型貯水施設において、水を満たしたまま底域が透視できる水辺作りに英知を尽くすべきだ。(1例として、<u>栄養塩豊かな底域から水抜きできるように、パスカルの原理に基づく特殊なフィルターを提案し、尼崎臨海地域工場の防火用水池で公開実験、実証中である</u>)</p> <p>2．逆発想で違和感があるが、ダムの利水は下流域とともに上流の集水地域に役立てる利水構造を目指すべきだ。ソーラー発電で「賢いダム」の貯水を上流に汲み上げて循環利用すると、太陽光で蒸発した水が山麓で降雨になるのに等しく、地域全体の保水能力が高まり、豊かな<u>自然環境の保全と農林漁業諸産業の振興</u>が両立して、持続的発展が見込める。</p> <p>3．猪名川の河口支流であったであろう尼崎の庄下川(1級河川)は、鋼矢板堤防と防潮堤で囲われ、底域を海面以下に掘り下げた治水効果の高いダム湖を形成し、流れを維持するように大型ポンプで排水し、海面以下ながら淡水河川になっている。この水位は低くて親水性に乏しく、利水されていないようだ。余野川ダムの是非を議論するとき、電力需給を含めて、<u>源流から河口域を含む流域全体の新しい利水システム</u>を考えてほしい。</p>					
その他					

氏名	増田 京子	住所	大阪府箕面市	年齢	51 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>余野川ダムが 1953 年 8 月の 1.8 倍降雨があれば治水対策として約 8000 億の被害を軽減できるとされていますが、2000 年 9 月名古屋近郊でおきた都市型水害の総被害額が約 8000 億といわれています。計算式があるとのことですが、雨の降り方は予測できません。過大な想定をしてダム必要論を言うのでは無く洪水はおこるものとして対策をとるべきです。</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>日本昆虫 3 大宝库の一つである箕面山の昆虫の多様性はもう言うまでもありません。植生も同様です。またオオタカの営巣も発見されていますが、秋の鷹渡りには上空を多くの猛禽類が飛び交います。ニホンシカの生息地でもあります。このような特性を活かすことがこれからのまちづくりでしょう。その重要な地域をダム湖にする必要性に説得力はありません。</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>利水予定者である箕面市（1 万 t/日）撤退。9 万 t/日、阪神水道企業団も尼崎工業用水転用をほぼ決定。当初計画の余野川ダム利水は無くなりました。</p>					
<p>その他</p> <p>遊水地なども検討されているようですが、所有者との問題があるとのことですが、何十年に一度の想定なのでから被害があった時の補償を丁寧にすればよいのではないのでしょうか。</p>					

氏名	水野 育成	住所	大阪府豊中市	年齢	65 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>余野川ダムは、下流域の治水のために計画されたはずですが。それがいつのまにか「多田地区の浸水被害を軽減するために一庫ダムの利水容量を振替える。しかし余野川ダムの容量をどうするかはまだ検討されていない(?)」というの理解できません。必要のないダムを必要とするためのこじつけとしか見えません。堤防の強化に力を入れるべきです。</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>余野川ダム建設予定地の環境が非常によいことは昆虫類の多様性、またオオタカの営巣がダム湖周辺に見られるように、周知の事実でしょう。</p> <p>ときわ台や水と緑の開発で無くなるとうしている貴重な自然をこれ以上、壊すことに何の意味があるのでしょうか。</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>水と緑の開発を控えている箕面市が利水撤退、阪神水道企業団も撤退を表明、また大阪府営水の水余り状況を見ても、一庫ダムが本当に渇水になったとしても十分に池田などに水を回すことができます。利水面でも必要が無いダムです。</p>					
<p>その他</p> <p>新潟の洪水被害では、ダム操作が問題視されています。また福井では堤防のぜい弱さが問題になっています。ダムがあってもなくても被害はあることでしょう。そのために被害を受けたら公的補償ができる方策を考える必要があるのではないのでしょうか。</p>					

発言を希望された方  
ご意見のみの方

氏名	秋山 孝昭	住所	兵庫県川西市	年齢	58 歳
----	-------	----	--------	----	------

猪名川流域の治水とダムについて

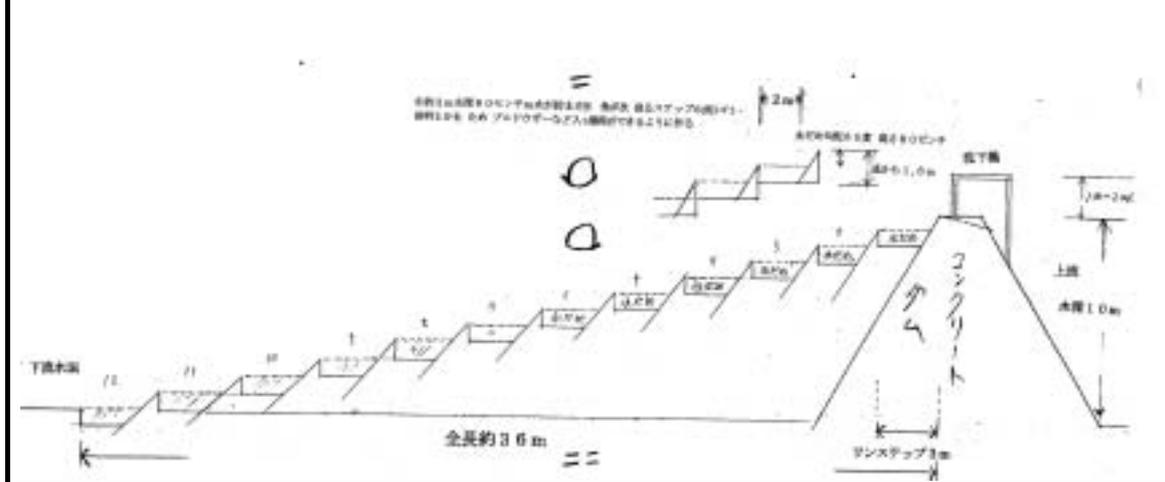
猪名川流域の環境とダムについて

猪名川流域の利水とダムについて

その他

さそくですがダムの事で 日本中すごく問題になっていますが 私はダムを造る構造作り方に 問題が有るのではとおもいます 私の考え 構想は 100m高低の有るダムでしたら 10m高低さのダムを 10 コ造ればよいと思う。

300m高低さが有れば 10m高低さ有るのを 30 コ作ればよい 水には太陽もさし込み 川全体 上流から下流まで湖のように 流れる湖 そして 10mの高低さの下流側は魚が登れるようにノコギリのように約 60 度勾配おつける 別紙図参照に そしてそのダムの上に (出来ればですが高知の沈下橋を作り) 釣りも出来るダムを造り 緊急の水もためておき 川と人間との調和のとれた 小さなダム小さな湖はいかがでしょうか、又これからは琵琶湖だけにたよらず 淀川・出来れば日本中の川を上記の構造で作ると良いと思います。



氏名	上田 士朗	住所	兵庫県川西市	年齢	62 歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>川西市では宝塚市からの前川や猪名川町からの猪名川本流や能勢町からの流水に昔から洪水で被害にあっている。森林の手入不足が今後もひどくなるので、十分な対策を望みます。</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>現在「オロジ川」にて自然との共生をテーマとした改修工事を進めて貰っており、NPO としても、流水の浄化に役立つ活動を進めたいと考えている。</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>技術的にことはわかりませんが、自主防災活動の一面からも、消防車が直接河川に接続出来る施設（駐車場所）等、有効では。</p> <p>又、ダムの水圧を利用出来る小実験（子供達向）施設等は、小供達の夢にも通じるのでは。</p>					
<p>その他</p> <p>ダムの水圧の利用については、別紙にて御想談申し上げます。</p>					

氏名	中田 實穂子	住所	兵庫県伊丹市	年齢	60歳
<p>猪名川流域の治水とダムについて</p> <p>ダム建設は、山肌が荒れて、山がくずれることがある。  (土せき流や山くずれなど)</p> <p>一体化の国立公園化(植樹などの為)</p>					
<p>猪名川流域の環境とダムについて</p> <p>環境の破壊</p> <p>景観などの見直し</p> <p>生活環境などの見直し</p>					
<p>猪名川流域の利水とダムについて</p> <p>猪名川位いでは利水は望めない。</p> <p>全体としての環境の見直し</p> <p>川に常時水流があるか?</p>					
<p>その他</p> <p>私流の私見</p> <p>天皇陛下の査定を受ける?(声)</p>					